

大雪山・赤岳での登山者のし尿汚染をなくしたい！

NPO法人かむい 森さなえ

『携帯トイレ』と言えば、登山者が持ち歩く、使用するイメージが強いです。
私も登山をするまで、そう思っていました。

2022年に沢山のボランティアの協力もあり、銀泉台赤岳コマクサ平に携帯トイレブースが完成しました。

- 2020年から行政に提案し、設置管理者はNPOかむいで進めていく方向で打ち合わせ
- 2021年にはテント型携帯トイレブースを設置、モニタリング・アンケート調査・測量許可申請手続き
- 2022年8月11日山の日に落成式、供用開始

登山者の皆様に荷上げボランティアの協力をお願いしたところ、あっという間に材料が荷上げされ、私たちの製作が間に合わない人気ぶりでした。

ブースの広さに関しては賛否両論があったと思いますが、あくまでも携帯トイレブースとしての役割です。ただし、万が一の時には避難場所として使え、緊急用の無線機も配備しています。



赤岳・コマクサ平の携帯トイレブース



便座と無料携帯トイレ配布箱



ブース利用数カウンター

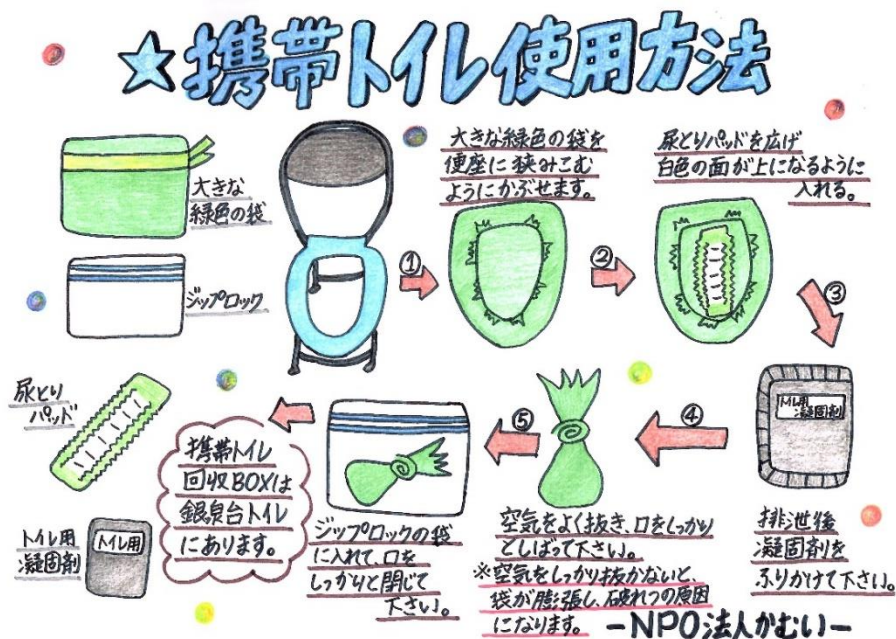


手作りの無料携帯トイレ

まだまだ携帯トイレが普及していないこともあったので、同時に携帯トイレの無料配布をスタートさせました。

無料で配布している携帯トイレは排泄物を入れる袋と凝固剤はN T Tより寄贈を受けたものになりますが外袋に使用しているジップロックと尿取りパッドを追加しました。特に尿取りパッドを入れることにより、尿の音も吸収してくれるので、ブースの外に音が漏れるのを防いでくれます。

持ち歩く時にも凝固剤のみの場合と安心感が違います。『そんなこと!?!』と思われるかもしれませんが、尿取りパッド1枚で携帯トイレを使ってくれる方が増えることは環境保全にも繋がります。2023年、この手作り携帯トイレは267セット配布することができました。



携帯トイレを持ち歩いても抵抗があり使用できない方、持ち歩いていない方などいましたが、ブースに携帯トイレの使用方法を掲示したこと、パトロールの時に使用方法の説明をするなど携帯トイレを使用して頂くためのきっかけづくりをしました。

携帯トイレブース内の利用数を把握する手押しカウンター値は“280”でした。



銀泉台登山口トイレと冬囲い後の回収ボックス



携帯トイレ回収ボックス



回収ボックスの利用数カウンター

赤岳の銀泉台登山口にある携帯トイレ回収ボックスのカウンター値は

2021年は“138”

2022年は“261”

2023年は“306”

携帯トイレを使用している方が年々増えている結果となっています。

- 携帯トイレを手に取り興味を示してもらう
- 携帯トイレを持ち歩いてもらう
- いざというときには、しっかりとつかえるように

毎年少しずつ普及はされながらも、し尿痕はゼロではありません。

黒岳のように、7合目までロープウェイ・リフトで上がり登れてしまいそうな気持ちになり、山頂まで行ったけれど下山まで排泄が間に合わなかった人。銀泉台赤岳でコマクサ平までには行かず、ナキウサギやシマリス目当てでその場に停滞している人など…。

がまんしてくださいとは言いませんが『最低限、使用したティッシュは持ち帰るようお願いします』。

ゴミをその場に捨てているのと同じで、紙は自然界には還らないのです…。



パトロール中に発見したし尿痕

2023年に見つけてしまったし尿痕…その中の1つは『出来立てホヤホヤ状態』でした。せめてティッシュさえ持ち帰ってくれば見つからなかったかも…動物のウンチと思えたかも…。もちろん手で拾って回収しました。

嫌な仕事とは思っていませんが、あなたが残していったもの、誰かが回収していますよ！

2020年、2023年はとにかく携帯トイレを普及させ携帯トイレを使ってもらうことに力を入れてきました。

しかし、山の中ではないのですが、駐車帯に車を停めた親が外で子供にし尿をさせている光景をよく目にするようになり、携帯トイレは登山者だけではなく、観光客も含め1人1つ持ち歩く時代が来ているのかとも思い始めました。

今後は、山に入る観光客にスポットを当てながらの普及活動も必要になってくると感じました。

(以 上)